

目的 被服領域の中で、洗濯に関する学習は、理論と実践の双方から構成される適切な教材と考えているが、現場での実践化には、いくつかの問題点がある。本研究は、小・中・高の一貫性の立場から、それぞれ適した教材を考察し、授業の効率をあげる指導方法を解明することを目的とする。

方法 はじめに、小学校における洗濯に関する学習の実態を調査し、更に、教材の適正化を実証するため、授業を行い、効果的な教材と指導方法を検討する。

調査 1) 小学校における洗濯に関する学習の実態を東京都と都留市の児童に行う。

2) 同じように、学習の実態を千葉県と横浜市の実家庭科担当教師に行う。

授業 小学校におけるくっ下の洗濯の授業実践

結果 1 調査結果

1) 被服整理の授業を、才5・6学年に分けて、2回行わず、いずれか1回しか行っていないところが多い。

2) 洗濯実習には、くっ下を扱っている学校が多い。

2. 授業の成果 くっ下を教材としてとりあげた場合

1) 視覚的に、汚れの判定がしやすい。

2) 手洗いと洗濯機洗いで、汚れの落ち方の比較ができる。

3) 才5学年の教材として、肌着を洗わせるよりも、結果がはっきりわかり、児童が興味、関心をもって実践できる。